

1 事業名 平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
How To ボランティア
～ボランティア活動の基本を学ぼう～

2 趣 旨

講義や演習、野外活動体験等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。

3 期 日 平成27年5月23日（土）～5月24日（日）

4 参加者 ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生 56名
（高校生 11名 短期大学生 1名 大学生 44名）

5 協 賛 Water Dragon Foundation
NPO法人日本国際ワークキャンプセンター（NICE）

6 後 援 岩手県教育委員会

7 内 容

(1) 日 程

5月 23日 （土）

	9:30	10:00	11:30	12:10	13:00	14:30	15:00	19:30	22:30	
受 付	開 会 行 事	青少年教育施設 の現状と運営	法人ボ ランティア 制度について	昼 食・ 休 憩	ボ ラン チ ア 活 動 の 意 義	移 動	ボ ラン チ ア 活 動 の 技 術 課 題 解 決 型 野 外 炊 事 「 び っ く り デ ィ ナ ー 」	青 少 年 教 育 施 設 に お け る ボ ラン チ ア 活 動	入 浴 ・ 休 憩	就 寝

5月 24日 （日）

	6:30	7:00	7:20	9:00	12:00	13:00	14:30	15:10	15:30
起 床	洗 面・ 清 掃	朝 の つ ど い	朝 食・ 休 憩	救 急 救 命 法 に つ い て	昼 食・ 休 憩	青 少 年 教 育 と 体 験 活 動	法 人 ボ ラン チ ア 登 録 に つ い て	閉 会 行 事	解 散

(2) 指導者

日本赤十字社 岩手県支部	赤十字救急法指導員	八重樫京子 氏
日本赤十字社 岩手県支部	赤十字救急法指導員	高柳 明子 氏
国立磐梯青少年交流の家	事業推進室長兼事業推進係長	室井 修一 氏
国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	中田 春輝
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	鎌田 信浩
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	及川未希生
指導補助		法人ボランティア

(3) 企画のポイント

本事業は、ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生に向けて、ボランティア活動の基本を講義・演習をとおして学び、ボランティアとして活動する上で必要な資質や施設を活用するためのスキルを身に付けさせることを目指すものである。事業のプログラム構成に当たっては、本施設で提唱している「国立岩手山青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」をもとに、「魅力的な体験プログラム」「魅力的なボランティア仲間の存在」「魅力的な講師の存在」を参加者とボランティアスタッフのかかわりをもたせながら、相互に自己実現を図っていくことを目指しており、企画の特徴的なポイントとして挙げられる。

(4) 広報のポイント

東北地区国立青少年教育施設の4施設（岩手山、花山、磐梯、那須甲子）合同で作成した広報チラシと岩手山独自のチラシを作成した。青森、秋田、岩手の三県の大学と岩手県内の高等学校にチラシ

を配布し、広報を行った。また、施設のホームページにおいて、参加フォームを設け、インターネット上から申し込めるようにした。盛岡大学には、年度初めの4月に事業のガイダンスを実施し、事業の趣旨や内容の説明と広報を行った。過去の事業の様子をスライドショーで紹介し、事業内容がイメージしやすいようにした。

さらに今年度は、東日本大震災の支援事業の一環で、Water Dragon Foundation から協賛を得て、沿岸地区の高校生ボランティアの獲得へ向けた広報を行った。具体的には、沿岸地区からの参加者に向けたポスターを作成するとともに、送迎バスを準備するなど、沿岸地区からでも参加しやすい体制を作り、広報を行った（結果として、宮古地区2名、久慈地区2名の参加を得た）。

一方で、北東北三県の大学の内、青森及び岩手の大学からは参加者が得られたが、秋田の大学生獲得が課題といえる。また、東北地区国立青少年教育施設合同チラシでの獲得は得られず、今後の広報の課題として挙げられる。

(5) 運営のポイント

機構の共通カリキュラムをもとに事業を推進する中で、ボランティアに対する理論や知識 を習得するとともに、アイスブレイクを行い、56名の参加者のコミュニケーションが十分にとれるように進めた。

また、平成27年4月に発刊された「青少年教育施設ボランティア養成テキスト」を活用し、ボランティア活動に関する基本的な内容を学習する機会を作った。

上記テキストの内容に加えて、継続的にボランティアの養成及び育成を行うために、本施設で取り組んでいる「国立岩手山青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」を根幹に据え、参加者が意欲的に講義・演習を実施できるようにプログラムを構成した。また、国立磐梯青少年交流の家から職員を招聘し、野外活動を安全に行うための理解を深め、活動中においても安全管理を意識させた。野外炊事はグループ内の話し合いをもとにメニューを決め、工夫して野外炊事を行った。

ボランティア養成研修という事業の特質から、先輩であるボランティアスタッフが参加者の身近な手本となるよう、グループのリーダーに配置したり、前に出て活動したりすることで、参加者もボランティアスタッフも相互にかかわり合いながら活動を進めた。参加者にとって、先輩であるボランティアスタッフの姿は、ボランティア活動に一步踏み出すためのモデルとなると期待できるが、加えて、ボランティアスタッフ自身にとってもスキルアップを図る機会となるとなるように工夫した。

8 成果とその普及

2日間をとおして、講師と参加者の架け橋としてボランティアスタッフが細やかに活動したことにより、参加者は意欲を持続して取り組む様子が見られた。参加者56名中、法人ボランティア登録を行ったのは53名と、本事業の参加者に対して、ボランティアとしての「心に火をつける」ことができたといえる。また、青少年教育におけるボランティア活動に興味をもち、その後の本施設の事業にボランティアスタッフとして参加したいと考えている参加者も見られ、職員やボランティアスタッフに話を聞く様子が見られた。

今後の事業等での活躍を期待するとともに、岩手山としてボランティアが十分活躍できる仕組みづくりを行っていく必要があると考えられる。

9 今後の課題

登録した法人ボランティアが当施設でいきいきと活動が出来るように、「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」、「体験活動支援セミナー」、「えいご de キャンプ」等のボランティア養成に関連した事業への参加を促し、研修の機会を設けていきたい。また、「国立岩手山青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」に則った継続的なボランティアの育成を行っていく必要がある。



講義の様子



野外炊事（びっくりディナー）



ポスターセッションの様子